

今年度の目標設定					今年度の目標の達成度と今後の取り組み		
A 組織の方針(使命)	B 重点目標項目	C 設定理由・考え方	D 活動(手段)	令和元年度 施政方針	E 目標の達成評価	F 目標の達成度	G 今後の取り組み
組織の基本方針又は使命	今年度取り組む事項	どのようなニーズに基づくのか どのような成果を目指すのか	重点目標項目を実現するため行う活動や手段		目標の達成状況や成果の評価 (できるだけ定量的に記入)	※目標の達成度の区分 (「B重点目標項目」単位での評価)	目標が未達成であれば、 今後の具体的な取り組み
各種災害から住民の生命、身体、財産を保護し住民と一体となって地域の消防防災力を強化していく。	1. 消防団員の加入促進	・身近な地域の防災リーダーとして火災予防等の啓発をはかり、地域に密着した活動が行え、安全・安心を提供できるよう人員の確保を図る。	・広報紙、市ホームページ及び地域の催事をとらえ広く加入を呼びかける。 ・各地区の防火指導を消防団員自らが行い責務を訴え加入促進を図る。		・飯岡区、大住ヶ丘自治会と連携し地区住民に消火器、消火栓の取扱いを指導した。 ・消防フェアーにおいて消防職員と協力し来場者に初期消火訓練を実施するとともに消防団員入団促進を行った。	A	今後も消防本部が行う行事や地域行事等で入団促進活動を行う。
	2. 災害対応力の充実強化	・災害現場活動を安全かつ効果的に行えるよう人員の確保を図る。	・消防団員を確保するため入団促進活動を実施してきたが、増員が見込めない地区においては消防団組織の改変により消防力を向上する必要があるため消防団本部役員、自治会等と協議する。		地域に密着した消防団活動が行えるよう団長をはじめ、団本部役員等と団員確保に向けた施策を調査、研究している。	B	今後においても団本部役員等と協議を重ね、自治会等に消防団の役割を説明し団員の確保を図る。
		・地震等で消火栓が寸断された場合でも消火活動が円滑、効率よく実施できるよう耐震性貯水槽を設置し、震災時における消防力の強化を図る。	耐震性貯水槽整備計画に基づき設置する。 打田地区に60㎡型1基を設置する。	8	打田地区の耐震性貯水槽60㎡1基の設置が完了しました。 (令和2年2月28日設置完了)	A	来年度についても設置を進めて行きます。
		・精鋭な部隊の育成と強化	消防学校の専科教育、各種講習受講、各種免許取得等を行い、知識、技術を高め部隊の強化を図る。		・三重県消防学校水難救助科1名、第3級陸上特殊無線技士及び潜水士免許を各1名取得した。 ・救急救命士の気管挿管病院実習1名、就業前病院研修2名を実施した。	A	今後も知識・技術の向上のため、各種免許取得や各種講習を受講し消防力を強化して行きます。
	3. 職員の意識改革	・親切、丁寧を心がけ市民に信頼される消防行政の推進を目指す。	・職員1人1人が服務規律を遵守して意識改革に努める。 ・仕事の基となる条例、規則等を理解し自信を持って仕事ができるようにする。		職員一人一人が公務員としての自覚と服務規律を遵守し意識改革を図っている。	A	今後も継続して実施する。
	4. 火災予防対策の推進	・住宅火災からの死傷者を未然に防止し、被害の拡大を防止する。 ・防火対象物・危険物施設における火災予防を推進する。 ・事業所における自衛消防隊を育成・指導する。	・住宅火災警報器の設置促進及び出火防止の啓発活動を実施する。 ・防火対象物における防火管理対策、危険物施設における安全対策の整備に関する指導及び消防関係法令の違反是正指導を推進する。 ・日常的な防火管理と災害時における活動要領等の指導を推進する。		・広報ほっと京たなべに9回掲載、ホームページに常時掲載 ・秋の火災予防運動時に「聖愛幼稚園」「松井ヶ丘保育園」と「京田辺市危険物安全協会」と合同で街頭啓発活動を実施した。 ・査察計画対象物（防火対象物、危険物施設）1122件の内、771件の査察を実施し、適切な指導を行った。 ・管内の事業所に対し避難訓練113回14,625名が参加、消火訓練111回2,805名、巡回防火教室は、20施設2,598名参加した。	B	・次年度も継続して広報と各種予防運動を実施する。 ・未実施となった計画対象物は、次年度の実施計画で優先実施対象物とし、適切な指導を行う。 ・今後も事業所等に対して各種指導及び訓練を実施し、災害時における活動要領等の指導を実施する。
	5. 災害に強い市民づくり	救急講習会等を積極的に実施する。	AEDの取扱いを含む上級・普通救命講習会や小学生を対象とした救命入門コースを実施する。		・上級救命講習10回28名、普通救命講習91回1,623名、救急指導35回902名に実施しました。 ・救命入門コースを、7校618名に実施しました。	A	今後も引き続き各種講習を積極的に実施し、救命率の向上を図ります。